

参加・体験型へ

限られた時間で効果的・効率的に



写真上のQRコードを読み取ると関連する動画を見ることができます。

3 研究の方向性

- ☐ 研究目標の設定
- ☐ 研究仮説の設定

4 研究組織の決定

- ☐ 研究組織の働きの明確化
- ☐ 実態に応じた組織づくり

5 年間研究計画の作成

- ☐ 年間研究計画
- ☐ 詳細な計画
(日時・研修計画・形態等)



1 (1) 役割分担

- ☐ 全体の役割分担
- ☐ 当日の役割分担

1 (2) 授業参観の視点の共有

- ☐ 仮説等に基づいた視点
- ☐ 児童生徒の学びの姿を見取る

1 (3) 指導案の検討

- ☐ 検討プログラムの作成
- ☐ 模擬授業や事前授業の実施

2 研究主題の設定

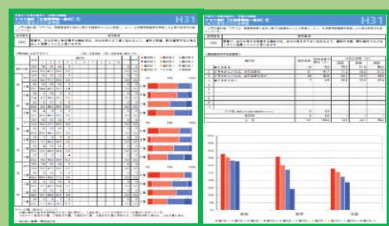
- ☐ 研究主題の立案
・学校教育目標
・成果と課題
・教育課題
・実態
- ☐ 全教職員で協議・共通理解を図る



研究主題設定に向けての協議

1 実態把握

- ☐ 学校評価
- ☐ 授業アンケート
- ☐ 全国学力・学習状況調査分析



【全国学力・学習状況調査分析ツール】

2 研究全体会の開催

- ☐ 全教職員で共通理解する
・研究の方向性
・校内研究の進め方



【研究全体会】

1 研究の方向性の明確化

- ☐ 日常の授業実践での活用
- ☐ 次年度の研究で追究していくことを検討
- ☐ 校内研究の進め方の改善策を協議

3 研究報告書の作成

- ☐ 項目・まとめ方・分担等の決定
- ☐ 今年度の実践を整理

2 成果と課題の明確化

- ☐ 各部会での話し合い
- ☐ 研究推進委員会でのまとめ



研究推進委員会

プロセス1
研究の計画・共通理解

P

プロセス2
研究の実践

D

A
次年度に向けて
プロセス4

C
研究のまとめ
プロセス3

校内研究モデル
児童生徒の
資質・能力の育成
教職員の
指導力・授業力向上
千葉県総合教育センター

概要版



指導案の検討

1 (4) 授業研究会の実施

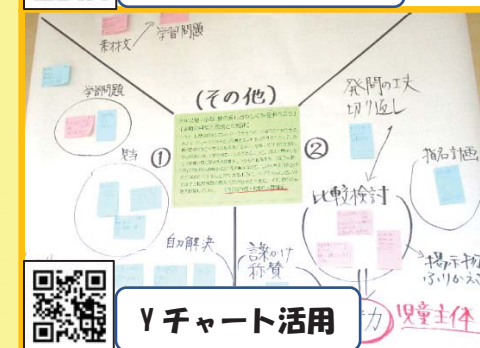
- ☐ 研究協議会の進め方
- ☐ 研究協議会の形態の工夫
- ☐ 参加者個々の振り返り（日常の授業実践に生かす）



拡大指導案活用



拡大指導案（ICT）活用



Vチャート活用



マトリックス活用

1 (5) 授業研究会のまとめ

- ☐ 研究報告会の実施
- ☐ 研究協議会の内容を掲示
- ☐ 研究だよりの発行
- ☐ 指導案・ワークシート等の修正
- ☐ 参加者の学びの共有

1 児童生徒の変容を把握

- ☐ アンケートの作成・集計・分析
- ☐ 日々の授業の積み重ねから把握

2 日常の授業実践

- ☐ 相互授業参観
- ☐ 手軽に行える授業参観

「□」にチェックをしながら、研究の進捗状況を確認していきましょう！





校内研究ガイドブック

概要版



プロセス1 研究の計画・共通理解

□実態把握をしよう【P1】

研究主題を設定するために、実態把握を行う。客観的データ（全国学力・学習状況調査等）に基づいて具体的に分析することや、日頃の授業や児童生徒の様子から実態をつかむことが大切である。

□研究主題を設定しよう【P2～P4】

研究主題は、全教職員の共通理解と納得に基づいて決定していく。研究主題は、研究の内容を端的に表現することが大切である。

□研究の方向性を決めよう【P5】

研究における手立てや児童生徒の目指す姿、身に付けさせたい資質・能力を具体的に決定し、研究の見通し（研究目標）をもつ。それらについて、共通理解を図るために、具体的な研究仮説を決定する。

「カリキュラム・マネジメントサポートブック」も参考にしましょう！

□研究組織を決定しよう【P6】

校内研究を円滑に推進するためには、研究組織が必要である。研究主任が中心となり、研究推進委員会と連携・協力しながら運営していく。

□年間研究計画を作成しよう【P7～P8】

校内研究を組織的・計画的に運営していくためには、1年間の見通しをもち、実効的な年間研究計画をつくることが大切である。



プロセス2 研究の実践

□校内授業研究の推進を図ろう

(1)役割分担【P11】

研究主任が中心となり各部会や学年等に役割を分担し、組織の機能を十分に生かしながら計画に沿って校内授業研究の準備と当日の運営を進めていく。

(2)授業参観の視点の共有【P12】

授業研究会の日程が決定したら、研究推進委員会等の組織を活用し、授業研究会での参観の視点を事前に決めておく必要がある。参観の視点を共有し、参加・体験型の研究協議会を行い、話し合いを深めていく。

(3)指導案の検討【P13】

授業者は、児童生徒の実態を把握し、指導案を作成する。指導案検討は、限られた時間の中で効果的に行うとともに、達成手段や手立ての検証となる授業展開であるかを十分に協議していく。

総合教育センターWebサイトの「Wakaba」も参考にしましょう！



(4)授業研究会の実施（授業展開・協議会）【P15～P21】

参加・体験型の研究協議会を企画・運営し、参加者全員が意見を出し合うことができ、授業者も参観者も共に学べるようにしていく。

「すぐに使える 校内研修の手法とツール」を活用していきましょう！



(5)授業研究会のまとめ【P22】

研究協議会を通して確認された成果や課題は、今後の指導改善の手がかりになるので、全教職員で共有する場を設定していく。

□日常の授業実践に生かそう【P23～P24】

授業研究会で学んだことと自己の課題を踏まえ、日常の授業実践に生かしていく。また、相互授業参観等を実施する際は、教職員の負担感を減らせるように、開催時間や方法・内容を精選して取り組むことが大切である。研究組織を生かしながら、個人やグループ単位など、学校の実態に応じて授業実践に取り組んでいく。

プロセス3 研究のまとめ

□児童生徒の変容を把握しよう【P25～P26】

研究の実践の積み重ねや児童生徒へのアンケート、学校評価等を基に、児童生徒の変容を把握する。

アンケートの作成・集計には「SQS」を活用すると便利です！



□成果と課題の明確化を図ろう【P27】

成果と課題をまとめるときは、児童生徒の変容を根拠にして、達成手段や手立てが有効であったかを振り返る。多くの教職員の意見を反映することが大切である。

□研究報告書（研究紀要）の作成をしよう【P28】

校内での実践を記録に残し、次年度以降に活用するために研究報告書を作成する。学校のWebサイトへの掲載や外部への配布等により、研究を広めたり、意見をもったりすることができる。

プロセス4 次年度に向けて

□次年度の研究の方向性を明確にしよう【P29】

研究の成果と課題や学校の実態等に基づいて、次年度の研究の方向性を決める。日常の授業実践で活用していくことと、次年度の研究を通して追究していくことを整理する。また、校内研究の進め方についても評価を行い、次年度に生かしていく。

□研究全体会を開催しよう【P30】

研究推進委員会で協議したことを基に、研究全体会を開催する。1年間の研究の成果と課題を確認したり、次年度の研究の方向性について検討したりして、全教職員で共通理解を図る。



参加・体験型へ

限られた時間で効果的・効率的に